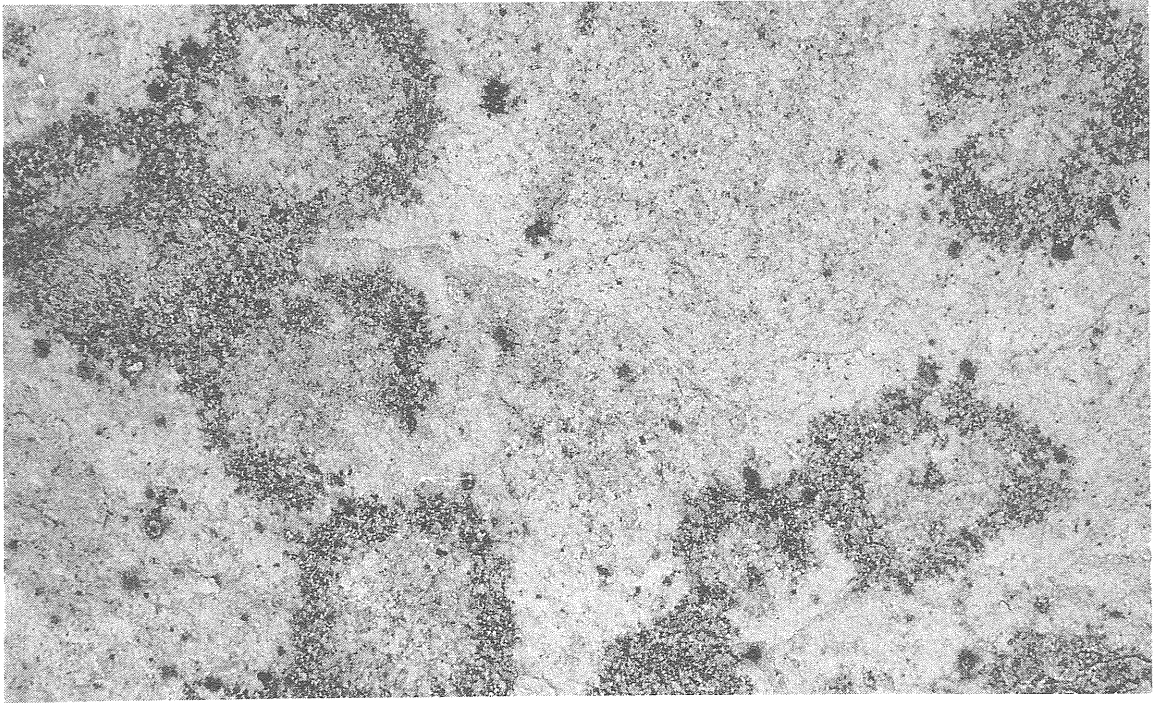


私の推薦する天然記念物



### 高隈山の電気石リングと堇青石斑点

西南日本外帯の堆積岩地帯には中新世のチタン鉄系花崗岩類があって、北側のIタイプと南側のSタイプに分けられる。Sタイプ花崗岩はアルミノ珪酸塩鉱物を捕獲岩や捕獲変晶を含むことで判別できるが、一般に堆積岩源の岩片を多く含み、汚らしい外観を待つ。

一方、鹿児島県桜島東方の高隈山岩体は6×9 kmの貫入岩株でありSタイプに属するが、岩体の大部分は非常にクリーンな黒雲母花崗岩(新光寺型)であり、捕獲岩もごく稀である。中心部には含拓榴石アプライト質花崗岩(猿ヶ城型)がみられ、細粒で強固なために猿ヶ城の奇観をつくる。

猿ヶ城型アプライトの中心部にはかなり広く電気石と堇青石斑点が産出する。電気石は直径5-6 cmのリング状(写真上)、細脈や直径15 cm以下のベグマタイト状に産する。堇青石斑点は直径数 cm以下(写真右)、鏡下でスピネルを伴うこともある。電気石はその産状からアプライト質マグマのマグマ期-気成期に晶出したものである。堇青石斑点は従来包

有物と考えられたが、筆者はベグマタイト期の変質斑点であろうと思っている。いずれにしても捕獲岩状でない産状の堇青石斑点は非常に珍らしく、学術的に大変貴重である。(工業技術院 石原舜三)

